



果樹類の満開期は昨年より 7 日早い到達となりました。現状では大きな低温被害はない模様です。今後は果実肥大や品質程度をよく確認し、仕上げ摘果に入ってください。4 月の連続強風で、せん孔細菌病の感染拡大が心配されます。薬剤散布と併せて病気の源となるスプリングキャンカーの除去を進めてください。また、りんご黒星病感染拡大がしばらく心配されます。薬剤散布は 5 月下旬まで概ね 10 日で進めてください。

## りんご薬剤摘果講習会開催について

\*都合の良い時間帯・最寄りの会場へお越しください。

### 1. 開催概要

月日	時間	集合場所
5 月 7 日 (月)	午前 10 時	南部共選所
	午前 11 時	高丘事業所前
	午後 2 時	平岡共選所前
5 月 8 日 (火)	午前 9 時	長丘事業所前
	午前 11 時	高社共選所前
	午後 2 時	倭選果所前

### 2. 内容

- ① 薬剤摘果（マイクロデナポン散布）の実施時期について
- ② 重要病害虫防除対策（黒星病他）・葉面散布資材の活用方法・収獲予想他

## りんご薬剤摘果について（参考）

### 1. 使用薬剤

- 結実状況を十分に確認してください。
- 極端に着果量が不足している場合：薬剤摘果は行わないようにしてください。
- 効果発現を高めるため、基本的には単剤で散布してください。

水	100 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$	500 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$	600 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$	1,000 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$
アプローチ B I (333 倍)	300ml	1500ml	1800ml	3000ml
劇) ミクロデナポン水和剤 85 (1200 倍)	83g	415g	498g	830g

### 注意事項

- ① 展着剤：アプローチ BI に代えて、ニーズ 1000 倍でもよい。
- ② ミクロデナポン（水）は果皮、果柄や果台から発生した新梢（葉）から多く吸収される。よって、果実及び花そう葉に十分かかるように散布する。
- ③ 散布量が少ないと効果が落ちる場合があるので、多めに設定する。
- ④ 結実が悪い園、毎年生理落果の多い樹や園、極端に樹勢が弱い樹、強い樹は散布しない。
- ⑤ 焼酎（20%）1000 倍加用すると効果があがる。
- ⑥ ミクロデナポン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。

### 2. 散布時期

- ① 満開 2 週間後目安 ⇒ 5/7～10 頃が適期
- ② 中心果の横径が 10～12mm 程度 ⇒ 測定位置：目通りの高さ
- ③ ふじは生理落果の少ない品種なので最も落果の多くなるタイミングで散布する。
- ④ この時期の果実は 0.5～0.7mm 程度 1 日肥大する。（10 日間で約 5 mm～7mm 伸びる）

次頁もお読みください。（ももせん孔病対策等、記載）

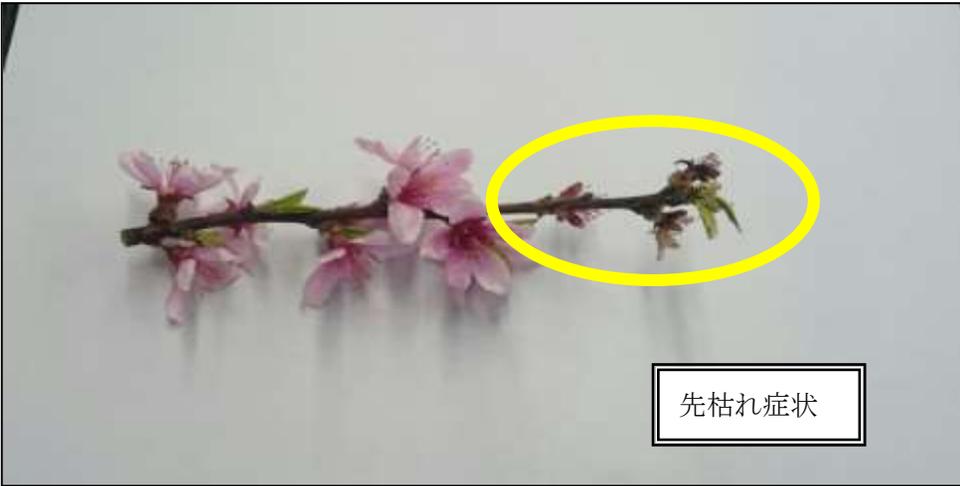
# せん孔細菌病 多発注意報

現在、せん孔細菌病発生地域を中心に春型枝病斑が散見されております。特に、4月は強風の日が多く、枝病斑から葉への感染拡大が心配されます。下記を参考に、徹底的に防除を実施しましょう

## ① 春型枝病斑を除去する（伝染源を減らす）



↓先枯れ症状（疑わしき枝）も徹底的に除去しましょう！



## ② 薬剤の散布間隔は10日以内とする（予防散布を継続する）

\*薬剤散布による防除（殺菌剤）は、あくまでも予防です。感染した後の治療効果は期待できません。降雨前の予防散布を徹底してください。（もも特報参照）

## ③ 「樹上かん水（畑灌）」は可能な範囲で止める

\*樹上かん水の影響で、感染が拡大する場合があります。

## ④ 早期に「袋掛け」を実施する（降雨による果実感染を防止する）

\*せん孔細菌病多発が心配される園地では、果実感染防止のため、薬剤散布実施後、なるべく早く袋掛けを実施してください。ただし、黄金桃・ネクタリン等で7月に生理落果が発生する品種は着果量をやや多めに残して袋掛けを実施してください。

りんご 百年ふじ、シナノリップ 2年生苗木 好評養成中！！  
百年ふじの里構築へ みんなで植えよう 「百年ふじ」